

## 平成24年度第2回経営工学教育FD/ICT活用研究委員会議事概要

- I. 日時 : 平成24年8月3日(金) 18時から20時30分まで
- II. 場所 : 公益社団法人 私立大学情報教育協会 事務局会議室
- III. 出席者 : 渡邊委員長、井上委員、玉木委員、水野委員、細野委員、小池委員、後藤委員  
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、野本職員

### IV. 検討事項

前回に引き続き経営工学の教育力についての検討を進めた。今回は、「【2】教育改善モデル実現に求められる教育力」および「【3】教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題」について検討を行った。

1. 【2】教育改善モデル実現に求められる教育力について、委員から提示され案をもとに以下の意見から検討を行った。
  - ・ 授業目的の理解と計画について、経営工学は範囲が広い。そのため、科目の位置づけも容易には分からないこともあり、カリキュラムのポリシーに合致した授業を計画できることにした。
  - ・ 経営工学で取り扱う課題は地球的規模から企業・組織体まで広範囲であり、教員には社会の要請をキャッチできる能力が必要である。
  - ・ 教員同士の協力も重要だが、学外の協力者を積極的に取り入れることを強調する。協力者には、授業の準備の部分だけでなく、授業の運営や評価・改善まで協力を求める。
  - ・ 主体的な学びが実現できる授業方法の設計で実習、演習、実験などに協調学習を取り入れ、具体的な意味が体感でき、実学的に学ぶこと。
  - ・ 学生個々人の学修を支援するための学修ポートフォリオについて言及し、改善モデルに対応させる。
  - ・ 学修成果の発信は、教員や社会はやや限定的で教員も協力者も含む仕組みが必要。
2. 【3】教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題について、基本方針の議論から以下の意見で検討を行った。
  - (1) FD活動について委員の意見
    - ・ 普通のFDではなく、より踏み込んだ表現が必要。有識者からアドバイスを受けるのが必要など、現時点では無理であっても、理想論を書くのが目的。
    - ・ FDの前提は教員間の連携、基本は学内、第三者からの評価はここでは外し、学内と学外との協力の2段階に分けてはどうか。継続的ではなく、現実的には定期的。
    - ・ 学内で行う「教育シンポジウム」に関する件について紹介があった、5年に1回は発表が回ってくる、教員500名弱、1回100名弱、まずポスターで発表。全教員で投票して順位を決め、上位者が口頭発表する、そこから表彰者が選ばれる、
    - ・ 全教員が参加する仕組みが必要。
    - ・ 点検と改善のためのアドバイスを受ける場を設ける相手として、企業・組織体等の協力者とした。
    - ・ 現場見学および調査として、研究までは難しいのではないかと、研究報告会が先で現場のことを知って教えることが大切ではないかと。
    - ・ 協働学習に対応して学修ポートフォリオも含めるワークショップが必要。
  - (2) 大学としての課題
    - ・ 順序は、学生に近い具体的な所から大きな話へ、実現し易いものからとして、①学修ポートフォリオ、②協働学習・演習、③ICT活用、④経済的支援となった。
    - ・ アーカイブだけでなく、情報の共有化も必要、授業録画、教材コンテンツも必要だが。ネットワーク上のディスカッションが大切。但し、ネットを通じて行えるのはディスカッションだけでない。

### V. 次回の手配

- ・ 学士力の考察に至る背景と各到達目標に解説を付けることを検討する。
- ・ 次回委員会 : 平成24年9月11日(火) 18時から20時まで